

2016 インプラントジャーナル 66号

特集

エビデンスの変化に伴った 患者のための治療プロトコルへ

林 揚春



国際 A4 判・季刊発行

定価：4,000 円＋税

編集・発行：ゼニス出版



現在、多くのインプラント臨床で採用されている 2 stage 法のインプラント治療プロトコルは、およそ 30 数年前に提唱された術式である。その後、インプラントを取り巻く科学的な根拠は変化しており、その表面性状や表面形状、そして周辺材料、術式にいたるまで日々進化している。そのような変化や進化を考慮すると、インプラント治療は外科的侵襲をより少なくでき、治療期間も短くできるようになっている。

本稿では、最新のエビデンスを基準に、患者のための新たな治療プロトコルを提案する。

Other contents

インプラント治療における咬合再構成のプロセスを考察する
長谷川 伸司



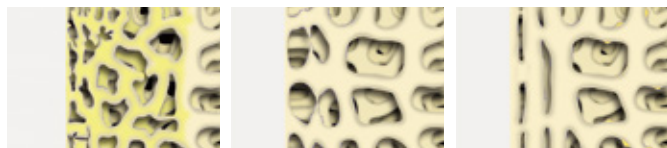
インプラント治療における歯周病学的考察
井原 雄一郎



IAT インプラントを用いた顎裂部の咬合再建
代田 達夫 + 樋口 大輔



インプラント周囲骨の変化を考える 第 6 回
フィクスチャー周囲骨に生じる経時的変化
菅原 明喜



インプラント臨床の一ヒント

審美領域における保存不可能な歯の矯正的挺出
竹島 明道



スクリュー固定上部構造の利点を活かした
サイドスクリューの新しい概念
水口 稔之 + 北村 英嗣



IS-II active - Neobiotech CMI implant-
骨質 + 骨構造という発想から生まれた
新しいコンセプトの CMI インプラント
その概要を検証する



目で見る口腔解剖学

下顎骨標本所見と顎関節部 CBCT 画像を使用した臨床的考察

2016 年度定期購読申込受付中